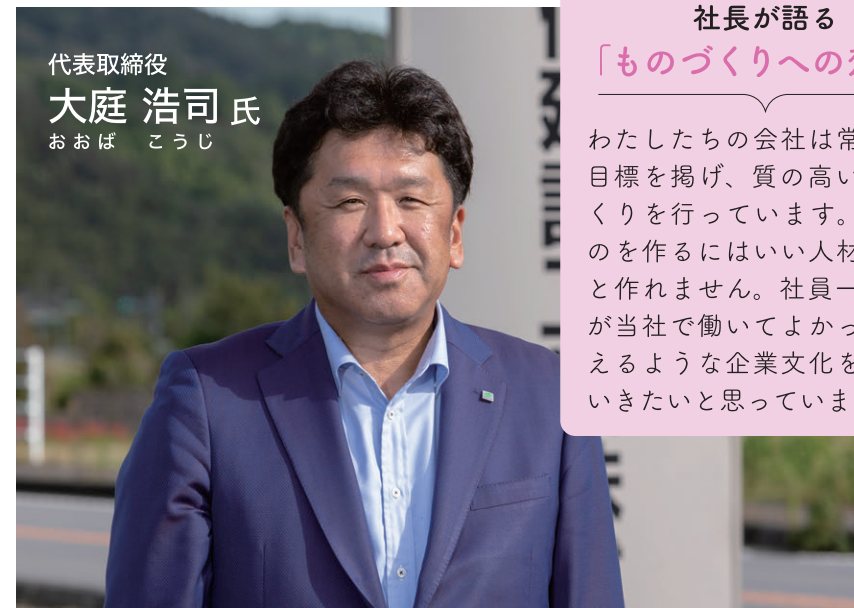




代表取締役
大庭 浩司 氏
おおば こうじ

社長が語る
「ものづくりへの想い」

わたしたちの会社は常に高い目標を掲げ、質の高いものづくりを行っています。いいものを作るにはいい人材がないと作れません。社員一人一人が当社で働いてよかったと思えるような企業文化を作っていきたいと思っています。



フィニッシャー導入により、舗装の仕事をする上で平坦性が作りやすくなった。ICTで施工するとオートボタンを押すだけで、走りながらフィニッシャーが凹凸を無くし、きれいに舗装していく。

平面図、高さなどのデータ入力する。肉眼ではわからない数ミリの世界を調整。熟練工がいなくとも扱えるので、人手不足を補ってくれる。



monozukuri
19

総合建設業

日伸建設工業
株式会社

〒879-1302
大分県杵築市山香町大字立石131-1
TEL 0977-76-2777

同機械を国道のバイパスの舗装新設工事で導入し、その後も県道の舗装新設工事では舗装作業また路盤の碎石敷均し作業でも使用。先端技術に触れる体験として、高校生の現場見学会も開催。成果として、通常のアスファルト舗装工事に比べると路面の平坦性が2割増し、工期短縮及び生産性向上を果たすことができました。

同社では今後の公共事業等受注に関しても「ICT技術を導入した施工であること」が発注元の施工条件に加えられる案件も増加しているため、非常に有利になることが見込まれます。またこの技術を県外でも行っていききたいと、さらなる拡大に向けて意気込んでいます。

ICT舗装技術を県内から県外へ
さらなる拡大を目指す



測量の現場で設置したトータルステーション。3台設置し、アスファルトフィニッシャーと常に通信し正確なデータを提供できる。

日伸建設工業株式会社は、主に舗装工事や土木工事を中心に行っている建設会社です。国道や高速道路をはじめ、市町村道、空港の滑走路等の舗装工事を幅広く手掛けています。近年の道路舗装工事において求められるのは、高い精度とより一層の平坦性。しかし、その要求に対応するにも、同社が所有

道路から空港の滑走路まで
舗装工事を幅広く手掛ける

する設備の精度や施工速度の限界と人員不足という、厳しい事態に直面していました。現状を打開するには、特にアスファルト舗装工事の一番重要な部分が舗装材料の敷均しでした。より一層の効率化、また高精度化の仕上がり考えた

高効率・高精度な施工を実現する
アスファルトフィニッシャー導入

上で、情報通信技術（ICT）の活用により、各プロセスから得られる電子情報をやり取りし、高効率・高精度な施工を実現する「3D-MC TS フィニッシャーシステム」を導入。これにより品質向上はもとより工期短縮や人手不足の解消、コスト削減を可能にしました。

舗装工事で大きな活躍と成果。
高校生の現場見学会も開催

monozukuri-19

nissinkensetsu

19 日伸建設工業 株式会社

誠実さと高い技術で誇れる
仕事を県内外へ



道路や駐車場の舗装工事におけるアスファルト材料敷均し作業時に「3D-MC TS フィニッシャーシステム」を導入。日伸建設工業ならではの、高精度化と生産性向上を目指す。



舗装現場にトータルステーション3台を設置し、アスファルトフィニッシャーと常に通信し、設計図通りの座標データでアスファルト混合物を敷均すことが可能。トータルステーションはアスファルトフィニッシャーに取り付けた2個のプリズムを自動追尾し、正確な情報を提供し続けます。

導入のポイント
フィニッシャーシステムで
仕上がりがより高精度に